

ダイワ／フィデリティ・アジア・ハイ・イールド債券ファンド(通貨選択型)

日本円・コース(毎月分配型)／ブラジル・リアル・コース(毎月分配型)
／アジア通貨・コース(毎月分配型)

第83期分配金のお知らせ

2018年6月4日

平素は、『ダイワ／フィデリティ・アジア・ハイ・イールド債券ファンド(通貨選択型)』をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは、2018年6月4日に第83期計算期末を迎え、「日本円・コース(毎月分配型)」につきましては分配金を見直し、当期の収益分配金(1万口当たり、税引前。以下同じ。)をそれぞれ以下のとおりと致しましたことをご報告申し上げます。

「ブラジル・リアル・コース(毎月分配型)」および「アジア通貨・コース(毎月分配型)」の分配金につきましては、前回決算と同額と致しました。

今後ともファンド運用にあたっては、パフォーマンスの向上をめざしてまいりますので、引き続きお引き立て賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

《各コースの分配金(1万口当たり、税引前)》

	日本円・コース	ブラジル・リアル・コース	アジア通貨・コース
第83期決算 分配金	30円	80円	90円
(前回決算 分配金)	(50円)	(80円)	(90円)
設定来 分配金合計額	3,980円	6,920円	7,200円
基準価額 2018年6月4日現在	8,325円	5,124円	9,124円

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

分配方針

『ダイワ／フィデリティ・アジア・ハイ・イールド債券ファンド(通貨選択型)』の収益分配方針は、以下のとおりとなっています。

- ① 分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とします。
- ② 原則として、継続的な分配を行なうことを目標に分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。

※ 分配金は、決算の都度、収益分配方針に基づいて委託会社(大和投資信託)が決定しますので、将来の分配金について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。今後の市場環境や運用状況によっては、分配金の変更あるいは分配金が支払われない場合もあります。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

Q1 なぜ、「日本円・コース(毎月分配型)」の分配金を見直したのですか？

A1 現在の配当等収益および分配対象額の状況などを考慮した結果、今後も継続した分配を行い、信託財産の着実な成長をめざすためには、分配金の見直しが必要との判断に至りました。

弊社の分配金についての考え方は、ファンドの収益分配方針、配当等収益や分配対象額の状況、基準価額の水準、市場環境等を総合的に勘案して分配金額を決定するというものです。

「日本円・コース(毎月分配型)」の分配金を見直したのは、現在の配当等収益および分配対象額の状況などを考慮した結果によるものです。

当コースは、第4期決算(2011/11/4)以降50円の分配金を継続しておりましたが、50円のうち期中の配当等収益を超える額は過去の蓄積等から充当してまいりました。その結果、分配対象額は徐々に減少してきております。

このような状況を踏まえ、今後も継続した分配や信託財産の着実な成長をめざすためには、分配金の見直しが必要との判断に至りました。今回、分配金を見直したことによる差額はファンドの純資産に留保されることとなります。

第83期決算(2018/6/4)について、期中の配当等収益は25円(1万口当たり、経費控除後)、分配対象額は375円(1万口当たり、分配金支払い後)となっています。

《基準価額・純資産・分配の推移》

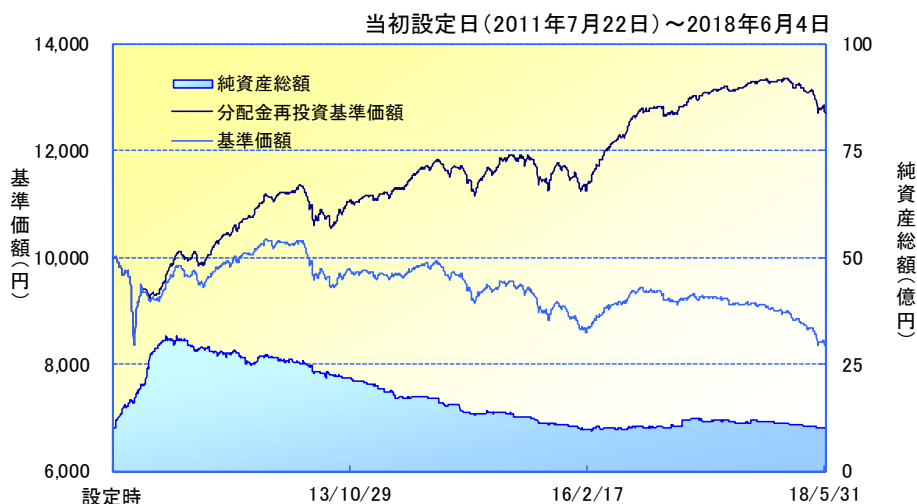
【日本円・コース(毎月分配型)】

2018年6月4日現在

基準価額	8,325円
純資産総額	9億円

《分配の推移》(1万口当たり、税引前)

決算期	(年/月/日)	分配金
第1～78期	合計:	3,750円
第79期	(18/2/5)	50円
第80期	(18/3/5)	50円
第81期	(18/4/3)	50円
第82期	(18/5/7)	50円
第83期	(18/6/4)	30円
分配金合計額	設定来:	3,980円
	直近5期:	230円



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。
 ※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

Q2 分配金はどのように決定したのですか？

A2 分配金は、収益分配方針に基づいて決定します。将来の分配金について、あらかじめ一定の額の分配をお約束することはできませんが、今後ある程度の期間にわたって継続した分配を行えるよう配慮しています。

当ファンドの収益分配方針において「原則として、継続的な分配を行なうことを目標に分配金額を決定します。」と定めています。当該方針に基づいて分配金は、今後ある程度の期間にわたって継続できるよう配慮して決定しています。

ただし、将来の分配金について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。今後の市場環境や運用状況によっては、現在の分配金の水準を維持できない、あるいは分配金が支払われない場合もあります。特に分配対象額の減少、配当等収益の低下、基準価額の下落などは分配金の見直し要因となります。

Q3 分配金を事前に知ることはできないのですか？

A3 決算日(毎月3日、休業日の場合は翌営業日)の夕方から夜にかけての公表までは、分配金をご確認いただくことはできません。

分配金は事前に決定しているものではなく、ファンドの決算日(毎月3日、休業日の場合は翌営業日)に、ファンドの収益分配方針、配当等収益や分配対象額の状況、基準価額の水準、市場環境等を勘案して委託会社(大和投資信託)が決定します。したがって、事前にお知らせすることはできません。

なお、委託会社のホームページ(<http://www.daiwa-am.co.jp/>)では、夕方から夜にかけて基準価額とともに分配金を公表しますので、そちらをご参照ください。

Q4 分配金を引き下げということは、今後の運用に期待できないということですか？

A4 分配金の引き下げは、今後の運用実績とは関係するものではありません。

今回の「日本円・コース(毎月分配型)」の分配金引き下げについては、現在の配当等収益および分配対象額の状況などを考慮し、決定しました。したがって、今回の分配金の引き下げは、今後の運用実績とは関係するものではありません。なお、運用成績は、分配金に加え基準価額の動きも含めたトータルリターン(総収益率)で確認する必要があります。引き続きパフォーマンスの向上をめざしてまいります。

Q5 最近の投資環境と今後の見通しについて教えてください。

A5 直近1年間(2017年6月以降)のアジア・ハイ・イールド債券市場は、上昇しました。2017年6月から2018年1月にかけては、世界的なマクロ経済環境の改善などを背景に、アジア・ハイ・イールド債券は堅調に推移しました。2018年2月以降は、米国の利上げ加速観測などから、軟調な展開となりました。

※以下のコメントの一部(アジア・ハイ・イールド債券市況、市場見通し)は、当ファンドにおける組入ファンドの運用会社であるフィデリティ(FILインベストメント・マネジメント(香港)・リミテッド)のコメントを基に大和投資信託が作成したものです。

＜アジア・ハイ・イールド債券市況＞

直近1年間のアジア・ハイ・イールド債券市場は上昇しました。

2017年6月から2018年1月にかけては、中国における金融引き締め懸念が意識されたものの、世界的なマクロ経済環境の改善などを背景に、アジア・ハイ・イールド債券のクレジットスプレッド(国債に対する上乗せ金利)は縮小しました。アジアの堅調な企業景況感や市場への資金流入も追い風となりました。

2018年2月以降は、米国の利上げ加速観測が強まり、過度な引き締めに対する警戒感を背景に、株式市場が大幅に調整したことを背景に、リスク資産のボラティリティも高まったことにより、アジア・ハイ・イールド債券のスプレッドは拡大しました。一方で、インドの政治の安定性やインドネシアの格上げなどは、アジアの底堅い景況感につながり、直近1年を通して市場を下支えしました。

(市場見通し)

欧州の金融政策は、量的緩和の解除に向かっていますが、依然として緩和的な姿勢を維持している国々や地域も多く、世界全体では緩和基調が急激に引き締まる状況とはなっていません。このような環境は、アジア・ハイ・イールド債券市場にとって支援材料となっています。また、相対的に高い経済成長率を背景とした個別企業の信用ファンダメンタルズに回復力があることも、支援材料として期待されます。アジア・ハイ・イールド債券市場は、他の地域と比較してデレーションの短い資産クラスであり、米国金利上昇局面においても、相対的に金利変動の影響を受けにくいと考えています。また、他のエマージング債券市場と比較して、欧米投資家の保有比率が低くなっていることは、世界的なリスクイベントに対して過剰な反応に陥りにくいと考えています。

(短期金利の環境)

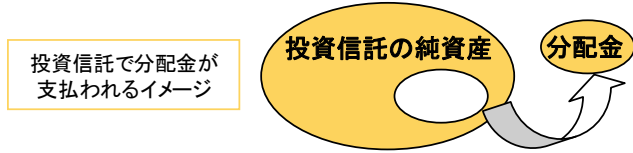
日本銀行は2016年9月以降の政策委員会・金融政策決定会合で、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」政策を維持しました。

米国では2017年6月以降のFOMC(米国連邦公開市場委員会)で政策金利を3回、合計0.75%引き上げました。

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

収益分配金に関する留意事項

- ◆ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

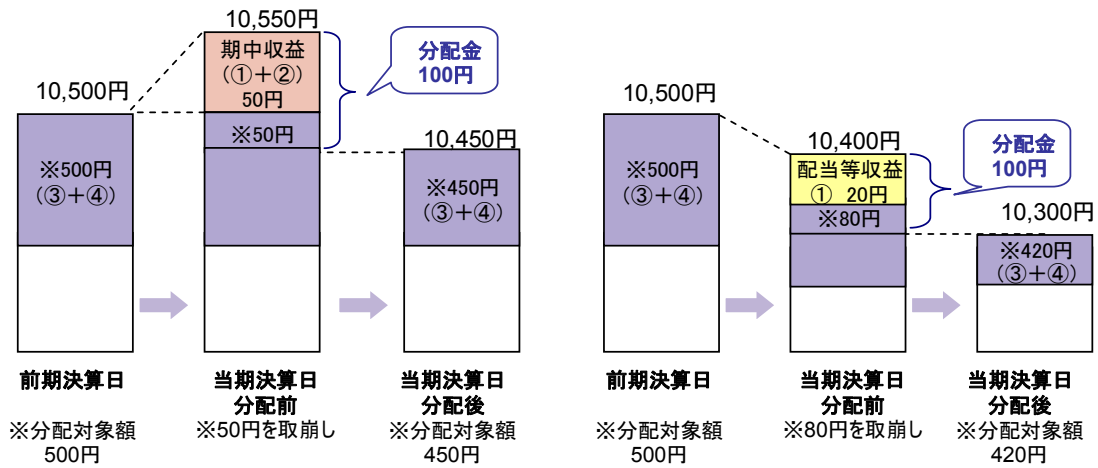


- ◆ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合

前期決算日から基準価額が下落した場合

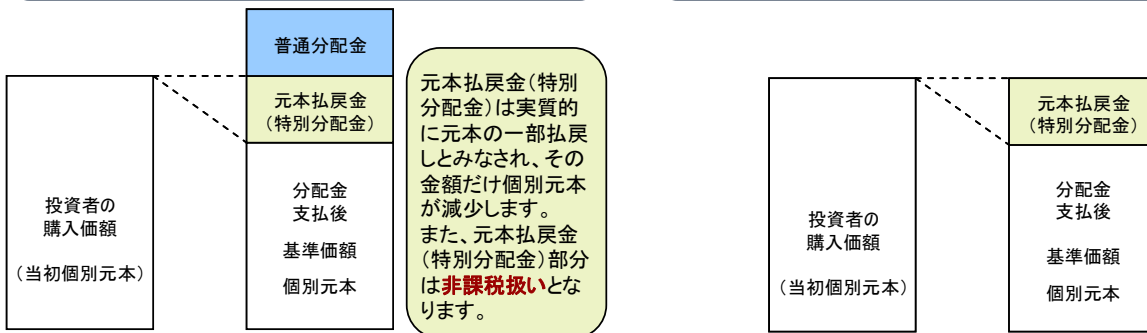


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

- ◆ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金 : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
 元本払戻金 : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の(特別分配金)額だけ減少します。

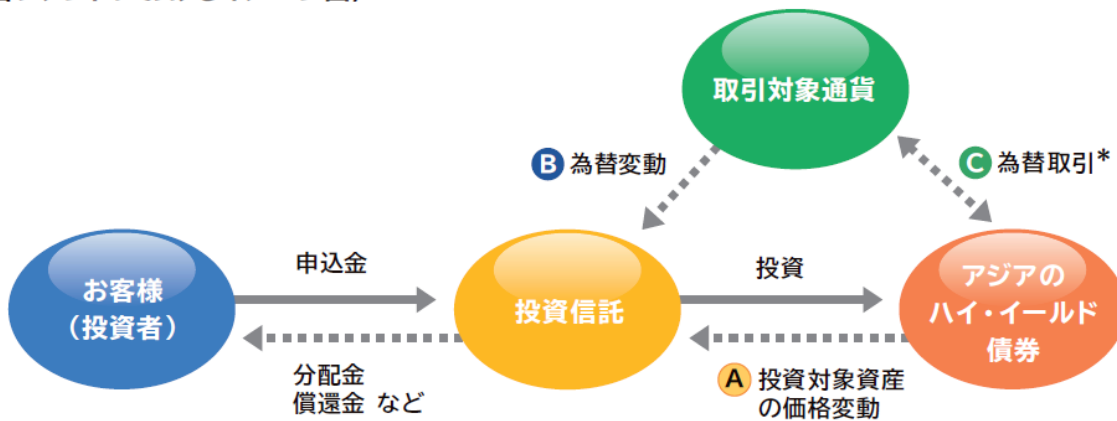
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

ダイワ／フィデリティ・アジア・ハイ・イールド債券ファンド(通貨選択型) 日本円・コース(毎月分配型)／ブラジル・リアル・コース(毎月分配型) ／アジア通貨・コース(毎月分配型)

通貨選択型ファンドの収益のイメージ

◆ 通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替取引の対象となる円以外の通貨も選択することができるよう設計された投資信託です。

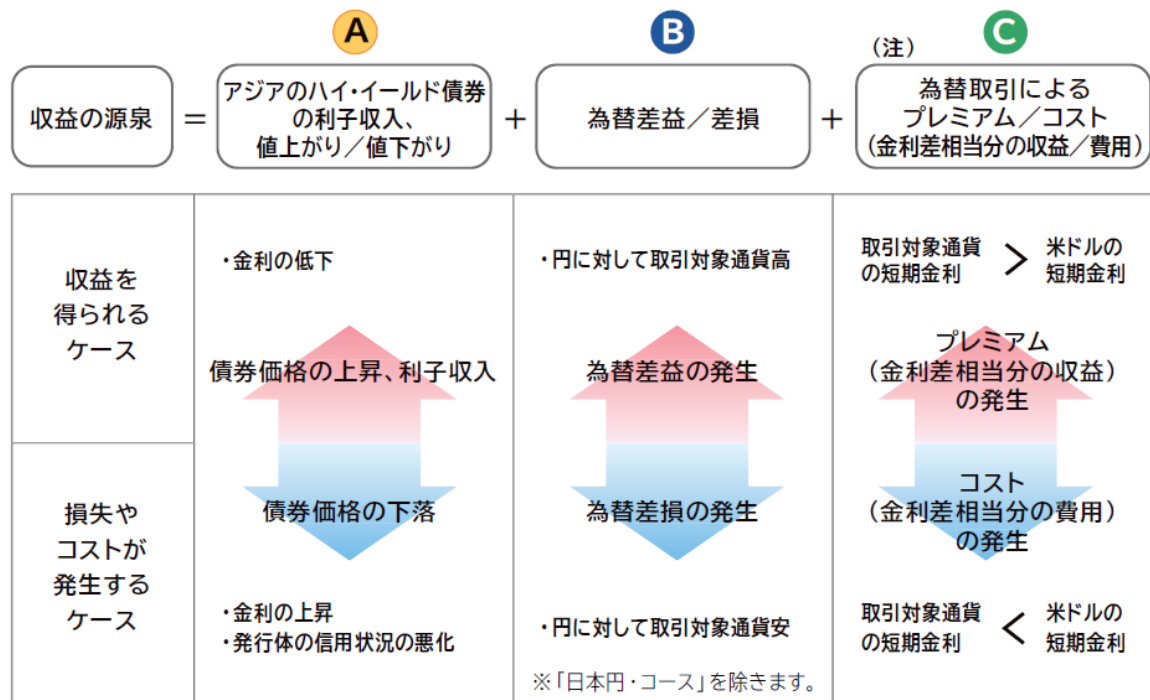
〈当ファンドにおけるイメージ図〉



*取引対象通貨が円以外の場合には、当該取引対象通貨の対円での為替リスクが発生することに留意が必要です。

◆ 当ファンドの収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。

これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。



(注) 取引対象通貨が新興国通貨の場合、為替取引を行なう際にNDF取引を利用することがあります。
NDF取引を用いて為替取引を行なう際、プレミアム／コストは、需給や規制等の影響により、金利差から期待される水準と大きく異なる場合があります。

※上記はイメージであり、実際の投資成果を示唆、保証するものではありません。

ダイワ／フィデリティ・アジア・ハイ・イールド債券ファンド(通貨選択型)

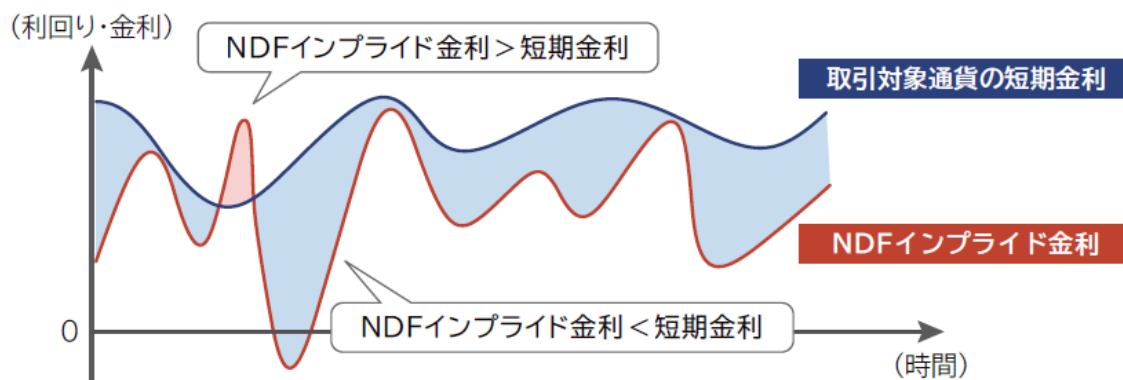
日本円・コース(毎月分配型)／ブラジル・リアル・コース(毎月分配型)

／アジア通貨・コース(毎月分配型)

NDF取引とは

- ◆取引対象通貨を用いた受け渡しは行わず、米ドル等の主要通貨による差金決済を相対で行なう取引です。
- ◆NDF取引価格から算出される“NDFインプライド金利”は、市場の流動性が低く、割高や割安を是正する動き(裁定)が働きにくいことから、市場参加者の期待や需給などの要因により、**取引対象通貨の短期金利の水準から大きく乖離する場合があります。**

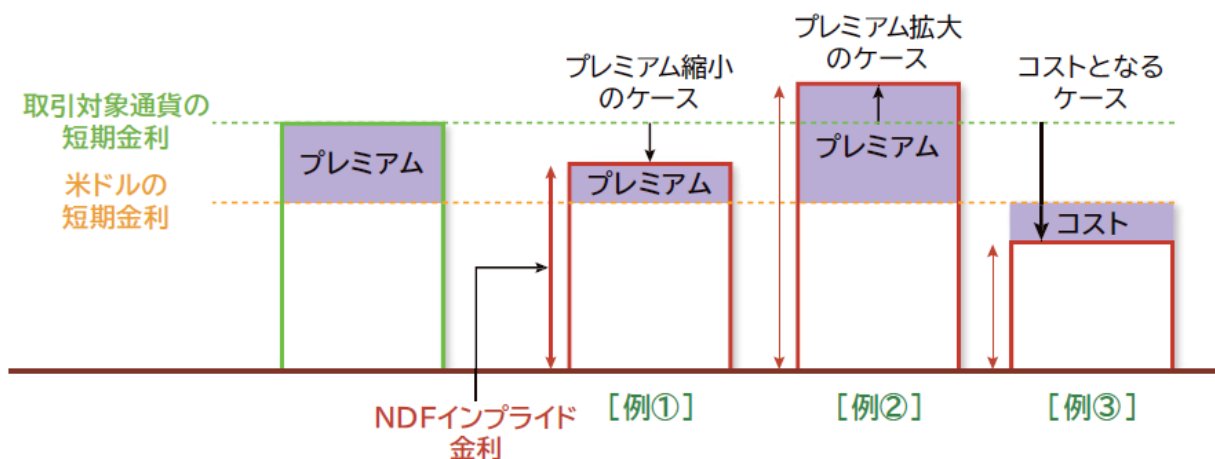
NDFインプライド金利と取引対象通貨の短期金利が乖離するイメージ



※上記はイメージであり、当ファンドのパフォーマンスとは異なります。

NDFインプライド金利の変動の影響

- ◆市場参加者の通貨上昇(下落)期待や需給などにより、NDFインプライド金利は低く(高く)なる可能性があります。NDFインプライド金利が取引対象通貨の短期金利より低く(高く)なると、**為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)が縮小【例①】(拡大【例②】)し、場合によっては為替取引によるコスト(金利差相当分の費用)となるケース【例③】**もあります。



※上記はイメージであり、実際のプレミアム／コストとは異なります。

※上記は投資成果を示唆、保証するものではありません。

ダイワ／フィデリティ・アジア・ハイ・イールド債券ファンド(通貨選択型)

日本円・コース(毎月分配型)／ブラジル・リアル・コース(毎月分配型)

／アジア通貨・コース(毎月分配型)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

- アジアのハイ・イールド債券に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。

ファンドの特色

- アジアのハイ・イールド債券に投資します。
 - アジアのハイ・イールド債券の運用は、フィデリティ※が行ないます。
 - ※FIL インベストメント・マネジメント(香港)・リミテッドが運用を担当します。
 - 為替取引を活用します。
 - 為替取引の対象通貨が異なる3つのコースがあります。
 - 各コースは、保有資産について為替取引を行ない、為替取引の対象通貨で実質的な運用を行ないます。
- ※投資対象とする外国投資信託において、ポートフォリオは、為替取引を活用し、実質的な米ドル建て資産の保有比率を高位に維持することを基本とします。

日本円・コース
原則、米ドル売り／日本円買いの為替ヘッジを行ないません。
ブラジル・リアル・コース
原則、米ドル売り／ブラジル・リアル買いの為替取引を行ないません。
アジア通貨・コース
原則、米ドル売り／アジア通貨買いの為替取引を行ないません。

※アジア通貨とは、中国元、インド・ルピーおよびインドネシア・ルピアをいいます。

※3つのコースの間でスイッチング(乗換え)を行なうことができます。

- 毎月3日(休業日の場合翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。
- 当ファンドは、複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- 外国投資信託の受益証券を通じて、アジアのハイ・イールド債券に投資し、保有資産について為替取引を行ないます。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「公社債の価格変動(価格変動リスク、信用リスク、ハイ・イールド債券への投資リスク)」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他(解約申込みに伴うリスク等)」

(日本円・コース)

※為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が米ドルの金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

※一部の通貨建て資産については、為替ヘッジを行なわない場合があるため、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

(ブラジル・リアル・コース、アジア通貨・コース)

※取引対象通貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。新興国通貨の為替レートは短期間に大幅に変動することがあり、先進国と比較して、相対的に高い為替変動リスクがあります。また、投資対象資産の通貨である米ドルの為替変動リスクを完全に排除することはできませんので、基準価額は日本円に対する米ドルの為替変動の影響を受ける場合があります。取引対象通貨の金利が米ドルの金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

※一部の通貨建て資産に対しては、為替取引を行なわない場合があるため、取引対象通貨以外の変動の影響を受けることがあります。

※NDF 取引を用いて為替取引を行なう場合、コストは需給や規制等の影響により、金利差から期待される水準と大きく異なる場合があります。

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご覧ください。

ダイワ／フィデリティ・アジア・ハイ・イールド債券ファンド(通貨選択型)

日本円・コース(毎月分配型)／ブラジル・リアル・コース(毎月分配型)

／アジア通貨・コース(毎月分配型)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 (上限)3.24%(税抜3.0%) スイッチング(乗換え)による購入時の申込手数料については、販売会社にお問合わせください。	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.1664% (税抜 1.08%)	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資対象とする 投資信託証券	年率 0.72%程度	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する 運用管理費用	年率 1.8864% (税込) 程度 (純資産総額によっては上回る場合があります。)	
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご覧ください。

販売会社:

大和証券
Daiwa Securities

商号等 大和証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号
加入協会 日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用:

大和投資信託
Daiwa Asset Management

商号等 大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会